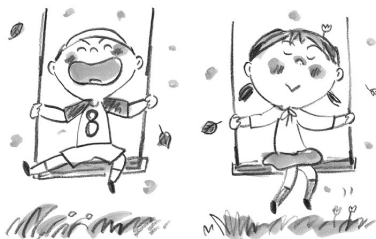


第57回

全国学童保育研究集会

「全国研は元気の素」、2日間、
存分に語りあい、学びあいましょう。
ぜひ、ご参加ください！



全体会

2022年10月29日（土）13:00 ～ 17:00

Zoomによるオンライン開催

全体会のみ、後日
オンデマンド配信あり

- 12:00 受付（入室）開始
- 13:00 ～ 13:30 歓迎行事
- 13:30 ～ 13:50 開会行事
- 13:50 ～ 14:15 基調報告 全国学童保育連絡協議会
- 14:15 ～ 15:05 特別報告
- 15:20 ～ 15:30 『日本の学童ほいく』普及拡大アピール
- 15:30 ～ 16:50 記念講演
「紛争地、被災地に生きる子どもたち
～取材から見てきたこと～」
安田菜津紀（フォトジャーナリスト）
- 17:00 閉会

*タイムテーブルは変更の可能性あり

分科会

2022年10月30日（日）10:00 ～ 16:00

Zoomによるオンライン開催

分科会の開始1時間前から受付（入室）開始

- 終日の分科会 10:00 ～ 16:00
- 午前の分科会 10:00 ～ 12:30
- 午後の分科会 13:30 ～ 16:00



イラスト・伊トリーツコ

主催 全国学童保育連絡協議会

後援 厚生労働省

全国学童保育連絡協議会／編集・発行

『日本の学童ほいく』

月刊／定価 391 円（本体 355 円）

働きながらの子育てと、
学童保育の実践と運動に
役立つ記事がいっぱい！



第57回全国学童保育研究集会のご案内

- 日程と開催方法 * 全体会のみ、後日オンデマンド配信あり
 2022年10月29日（土） 全体会 Zoomによるオンライン開催
 10月30日（日） 分科会 Zoomによるオンライン開催
- 参加費 4,000円（消費税課税対象外）
 1日のみの参加も、両日参加も参加費は同額です。
- 参加申し込み方法
- ※ ①「参加申し込み受付」を行っている連絡協議会 ②愛知学童保育連絡協議会のいずれかへ、WEBまたはFAXにてお申し込みください。

1

「参加申し込み受付」を行っている連絡協議会

在籍・勤務・所属する学童保育が下記にある場合は、該当の連絡協議会へ、お問い合わせ（お申し込み）ください。

府 県	連絡協議会	問い合わせ・申し込み先
宮城県	宮城県学童保育連絡協議会	E-mail zenkokuken.miyagi@gmail.com TEL 090-1930-4908（担当：池川）
埼玉県	埼玉県学童保育連絡協議会	URL http://sai-gakudou.com/saitamakenren-hp
石川県	石川県学童保育連絡協議会	E-mail isgakuho@beach.ocn.ne.jp TEL 076-259-0620 FAX 076-259-0620
京都府	京都学童保育連絡協議会	E-mail gakudo-k@silk.plala.or.jp TEL 075-754-7401 FAX 075-754-7601
兵庫県	兵庫県学童保育連絡協議会	E-mail d57zgk.hyogo@gmail.com
和歌山県	和歌山県学童保育連絡協議会	E-mail wakayama.gakudou2016@gmail.com
大分県	大分県放課後児童クラブ連絡協議会	E-mail h-sato@ctb.ne.jp TEL 090-6636-2037（会長 佐藤）

2

愛知学童保育連絡協議会（①に該当しない方は、こちらへお申し込みください）

問い合わせ先 TEL 052-872-1972 E-mail zenkokuken57@gakudou.org

- * WEBでのお申し込みの場合は、下記URLよりお申し込みください。参加申し込み受付完了後、指定のメールアドレスへ受付完了メールをお送りします。12時間経っても届かない場合は、再度お申し込みください。

▶参加申込URL <https://forms.gle/PyqVTRbR69MMDm8N8>

▼QRコードにてアクセスされる方はこちら



- * FAXでのお申し込みの場合は「参加申込書」に必要事項をご記入のうえ、お申し込みください。お申込日から5日以内をめぐに指定のメールアドレスへ受付完了メールをお送りします。

▶参加申込FAX **052-308-3324**

- * 受付完了メールに参加費の振り込み先を記しますので、支払い期日（原則1週間以内）までにお支払いください。

● 申込締切日（申込先・申込方法にかかわらず） 2022年9月30日（金）

- ※ 参加費の最終支払い期日は10月7日（金）です。最終支払い期日までにご入金いただけない場合はキャンセル扱いになります。
- ※ キャンセル料……9月30日（金）までのお申し出については無料。振込手数料を差し引いた額を返金いたします。10月1日（土）以降のキャンセルは返金できません。
- * オンデマンド配信による視聴のみを希望される方も参加申し込みが必要です（参加費・申込締切日共通）。

Zoomによるオンライン開催について

- 本研究集会は、インターネットを介したweb会議システム **Zoom**によるオンライン開催です。参加にあたっては、事前にパソコンやタブレット、スマートフォン等、当日使用する端末機器に**Zoom**アプリをインストールし、動作確認および受信する場所のインターネット環境をご確認ください。
 - * 「討議資料」を送付する際に、Zoomアプリのダウンロード方法などのご案内を同封いたします。
 - * インストールやアプリの使用は無料ですが、通信費等が発生しますので、各自でご負担ください。
- 1台のパソコン（またはタブレット、スマートフォン。以下同じ）で複数の方が参加することができます。ただし、参加費は1名につき4,000円、参加される方全員のお名前等をお知らせください。なお、1台のパソコンで複数の方が同時に、別々の分科会に参加することはできません。参加者それぞれが別の分科会に参加を希望される場合には、お一人ずつ、個人でお申し込みいただくか、希望分科会ごとにグループ分けするなどして、お申し込みください。
- 10月30日（日）の分科会は、「終日」「AM」「PM」の3つの時間帯があります。「終日」の分科会を選んだ場合、「AM」「PM」の分科会は選べません。「AM」「PM」の分科会を選んだ場合、「終日」の分科会は選べません。なお、「AM」「PM」の分科会は、「AM」の分科会と「PM」の分科会とを組み合わせる2つ選ぶこともできます。
 - * 参加申し込み（WEB・FAX共通）の「希望分科会」が、上記（ ）部に示したような、選ぶことのできない組み合わせだった場合、①「終日」>「AM」>「PM」、②分科会番号の小さい順に従って、参加分科会の割り振りを行います。ご承知おください。分科会の内容とともに、時間帯もご確認いただいたうえで、お申し込みください。
- 10月中旬以降、ZoomのミーティングIDやパスコード等、参加に必要な事項をまとめ、指定のメールアドレスへ送ります。「討議資料」は、指定された資料の送付先へ、事前に送付します。

参加者へのお願い

レポート 資料

- ・分科会に参加者が自主的にレポートや資料を用意すること、画面共有することはできません。

チラシ配布 署名・募金 カンパニア

など

- ・これらの活動を行うことは集会運営に支障となりますので、認めていません。全国からの参加者にとって研究・学習の有意義な場となるよう集会を運営しています。ご理解とご協力をお願いします。

集会についてのお問い合わせ

（月曜日～金曜日の10:00～17:00）

全国学童保育連絡協議会

〒113-0033 東京都文京区本郷2-26-13

T E L 03-3813-0477

E-mail d57zkk@xvg.biglobe.ne.jp

10月29日(土)

全体会 ●Zoomによるオンライン開催

後日、オンデマンド配信あり

記念講演 紛争地、被災地に生きる子どもたち～取材から見てきたこと～

安田菜津紀（フォトジャーナリスト）



<プロフィール>

1987年神奈川県生まれ。認定NPO法人Dialogue for People（ダイアログフォーピープル/D4P）フォトジャーナリスト。同団体の副代表。16歳のとき、「国境なき子どもたち」友情のレポーターとしてカンボジアで貧困にさらされる子どもたちを取材。現在、東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で難民や貧困、災害の取材を進める。東日本大震災以降は陸前高田市を中心に、被災地を記録し続けている。著書に『写真で伝える仕事－世界の子どものたと向き合って－』（日本写真企画）、他。上智大学卒。現在、TBSテレビ『サンデーモーニング』にコメンテーターとして出演中。

©Dialogue for People

10月30日(日)

分科会 ●Zoomによるオンライン開催

終日●10:00～16:00 AM●10:00～12:30 PM●13:30～16:00

2020年3月以降、「新型コロナウイルス感染症」拡大防止のために学校が「臨時休業」していた間、学童保育は、国から保育所と同様に「原則開所」を求められ、保護者の就労と社会の機能を支えてきました。しかし、国の基準に示された施設の広さや子ども集団の規模は、すべての学童保育で実現できてはならず、感染リスクを避けるための「利用自粛」をはじめ、子ども・保護者・指導員それぞれが制限された生活をつづけています。

感染症拡大防止と子どもによりよい放課後の「生活の場」を保障するという2つを軸にして、分科会では、保育実践、制度、運動等、さまざまな角度から、コロナ禍にあっても、私たちが培ってきた学童保育の役割と、保護者と指導員が共に子どもを育てる学童保育のあり方を確かめあいましょう。

#	時間帯	分科会	学習・交流のねらい
1 基礎講座 (講義)	A M	①学童保育ってなあに？——今日の子育てと学童保育の役割	子育て環境の現状、保護者の仕事・職場や就労の実態をふまえて、学童保育の役割と保護者と指導員が共に子どもを育てる学童保育のあり方を学びます。
	P M	②保護者と指導員で学童保育をもっとよりよく	「子どもが安心して生活できる学童保育にしたい」と願い、学童保育の生活内容をつくり、運営や条件整備に取り組むにあたって、保護者と指導員がどのようにかわるか、そして保護者会（父母会）と指導員の役割を学びます。
	A M	③学童保育指導員の仕事ってなあに？	指導員の仕事とはなにかを確かめ、仕事に必要な打ち合わせや記録などの日々の実務やその意味、そして学童保育をよりよくしていくうえで指導員に必要なこと・大切にしたいことを学びます。
	P M	④学童保育の生活——大切にしたいこと	学童保育で子どもにどのような生活を保障するか、そして保護者が安心して働くために、学童保育で大切にしたいことはなにかを学びます。

#	時間帯	分科会	学習・交流のねらい
2		子ども理解と学童保育の生活づくり（実践の交流） 一人ひとりの子どもの学童保育での生活を保障し、保護者が安心して子育てと仕事等を両立できるように大切にしたいことを、実践を交流しながら学びあいます	
	終日	①子ども理解の視点と安心できる関係づくり	一人ひとりの子どもと指導員との関係から生まれる安心感をもとにした、継続的で安定した毎日の生活をつくるために、一人ひとりの子どもをどのように理解するか、子ども同士の関係をつくるうえで大切にしたいことを学びあいます。
	終日	②学童保育の生活の見通しと流れ	継続的で安定した毎日の生活をつくるために、子どもの状況をふまえ、平日の放課後・土曜日・長期の学校休業日など、それぞれの生活の状況に合わせての見通しと流れをつくるうえで大切にしたいことを学びあいます。
	終日	③学童保育の生活とあそび	学童保育の生活の中心をしめるのは“あそび”です。子どもはあそびを楽しみ、いろいろな発見をして、人間関係を育み、成長していきます。日々の生活のなかで子ども自身が主体的にあそぶことの大切さ、また指導員があそびに関わる意味や配慮すべき点を学びあいます。
	終日	④子どもたちの生活を伝え、保護者とともに育てる	子どもの生活の様子や指導員のかかわりを保護者に伝えること、保護者の生活や思いを受けとめ、指導員と保護者がともに子どもを育てることの大切さを学びあいます。
	終日	⑤高学年にととの学童保育	思春期を迎える高学年の子どもと学校や家庭、地域での過ごし方、子どもの思い・願いを理解しながら、1年生から6年生の子どもが過ごす場である学童保育で大切にしたいことを学びあいます。
	終日	⑥学童保育の生活づくりと食 助言者・平本福子 (宮城学院女子大学名誉教授、 NPO法人食生態学実践フォーラム・ 学童保育の「食」を考える会)	学童保育に通う子どもにとって、おやつはとても楽しみな時間です。「手づくりおやつ」ができる環境になくても、子どもがおやつづくりの計画に参加することができるとの視点や、食は文化にかかわることも含めて、「学童保育の生活における食とは何か」「子どもたちの育ちにどのような影響を持つのか」について学びあいます。
	終日	⑦障害のある子どもにととの学童保育 助言者・丸山啓史（京都教育大学）	障害のある子どもが入所している学童保育での生活づくりの実践を交流し、指導員の働きかけで大切にしたいことを学びあいます。
	終日	⑧子ども理解と心のケア——災害と学童保育 助言者・畑山みさ子 (宮城学院女子大学名誉教授)	多発する災害、コロナ禍のもと、心に痛手を受けた子どもにしばしば見られる行動や、そうした子どもやその周囲の大人（保護者や指導員）との関わりで心がけること、支援者たちをどのように支えていくかについて、考えます。東日本大震災直後から、子どものケアにあたる人たちのための支援活動を続けている助言者を迎え、実践を交流し、学びあいます。

運動を交流する分科会			
3	終日	①つながる“お”保護者会・父母会の役割と活動	学童保育を充実・発展させる保護者会・父母会の活動を交流し、保護者会・父母会の役割と大切さを確かめます。
	終日	②市区町村の連絡協議会づくりと活性化	連絡協議会の活動を持続・発展させるための工夫、保護者・指導員が「あってよかった」と実感した経験を交流し、市区町村・都道府県の連絡協議会の役割と大切さを確かめます。
4	終日	公立公営の学童保育——実態と改善の課題	公立公営の学童保育の実態と課題、保護者と指導員が生活内容と施策をどう充実させていくのかを交流し、公立公営の学童保育の意義・役割を確かめます。
5	終日	保護者が運営する学童保育——運営と改善の課題	運営の工夫、指導員との連携・協力のあり方、行政への働きかけの実際などを交流し、保護者が担っている役割と行政の公的責任について確かめます。

#	時間帯	分科会	学習・交流のねらい
6	終日	運営主体の変更・多様化する学童保育——実態と改善の課題	学童保育の民間委託がすすめられたり、保護者会や地域運営委員会が運営を手放したりすることなどによる運営主体の変化がおこっています。その際に保育以外の事業を多角的に運営する法人が参入することで、学童保育の内容づくりに保護者が主体的にかかわれない状況も生まれています。さまざまな運営主体で運営される学童保育の実態を交流し、行政の公的責任と学童保育のあるべき姿を確認し、運動の課題を確かめます。
7	終日	学童保育の民営化を考える 助言者・木村雅英 (大阪自治体問題研究所)	市町村の委託、指定管理者制度で運営される学童保育では、「人材確保・運営の効率化」「サービスの拡充」を理由とした企業参入が広がっています。また、補助事業として運営される学童保育では、企業の事業拡張にともなう参入が増えていきます。そのなかで、行政が果たすべき公的責任とはなにか、運営体が果たすべき役割はなにかを確かめます。保育の内容、雇用のあり方等の実態を交流し、保護者と指導員がこれまで培ってきた子どもをまんなくにした学童保育を行うための運動の課題を確かめます。
8	終日	子どもの放課後を考える 助言者・増山 均 (早稲田大学名誉教授)	子どもにとって放課後とはどのような時間なのか、また、その時間を支える大人（指導員や保護者、地域の方々）が大切にしたい視点とは何かを確かめ、学童保育が「生活の場」であるために何が必要かを考えます。コロナ禍にあっても大切にしたい学童保育の生活についても確かめます。
9	終日	よりよい施設を子どもたちに——毎日の生活の場	施設・設備の実態と課題について、省令基準や「放課後児童クラブ運営指針」をふまえて、改善運動や工夫を交流し、学童期の子どもの「生活の場」にふさわしい学童保育の施設・設備のあり方を確かめます。
10	終日	安心して関係を築ける人数に——「40人以下」の実現を考える	省令による基準や「放課後児童クラブ運営指針」で示された「子どもの人数はおおむね40人以下」を実現するための新設、分割の必要性とあり方を考えます。
11	終日	学童保育の制度と施策の拡充の課題	「従うべき基準」の参酌化に伴う条例改正等の状況や、「施行後3年」の見直しをはじめ、学童保育の制度・施策の現状と課題を明らかにし、国と自治体への運動を交流し、学童保育の制度・施策を充実させていくために必要なこと、行政の公的責任を求める運動の課題を確かめます。
12 指導員にかかわる課題	終日	①専任・常勤・複数体制の確立、労働条件の確立	「専任・非専任」「常勤・非常勤」「午後からの勤務」「ローテーション」体制の実態と課題を明らかにし、指導員の仕事の確かめ、専任・常勤・複数体制や各地域での労働条件の改善の必要性を確かめます。
	終日	②指導員の職場づくりと指導員組織	指導員の仕事に必要とされる「連携・協力」「学びあい」の実態を交流して、「職場づくり」の課題を確かめ、指導員同士が学び、支えあうための指導員組織の必要性やあり方について確かめます。

講義の分科会			
13 障害のある子どもと学童保育	A M	①障害のある子どもの理解と受け入れ 講師・松浦 淳（青森中央短期大学）	障害のある子どもの権利を保障し、保護者の思いを受けとめて学童保育で生活するにあたって大切にしたい視点や必要な条件整備について学びます。
	P M	②発達障害のある子どもの理解と支援 講師・中尾正彦（日本文理大学）	発達障害のある子どもの理解を深め、学童保育での生活、子ども同士のかかわり、指導員とのかかわりで大切にしたいこと、保育するうえで求められることを学びます。
	P M	③地域の専門機関・専門職等との連携 講師・佐々木将芳 (静岡県立大学短期大学部)	障害のある子どもとの生活づくりに必要な関係機関はどのようなものがあるのか、また関係機関との連携のあり方について学びます。

#	時間帯	分科会	学習・交流のねらい
14	終日	高学年の子どもたちの生活と理解 講師・得丸浩一（京都・小学校教諭）	高学年の子どもたちの心と身体の特徴、生活、願い・思いを確かめ、高学年の子どもたちに保障したい放課後の生活や、学童保育や家庭で大切にしたいことを学びます。
15	終日	子どもの権利を学ぶ 講師・齋藤史夫 （東京家政学院大学准教授）	「子どもの権利条約」を今日の日本の実情と照らしあわせながら、学童保育や家庭で大切にしたい子どもの権利を学びます。
16	終日	今日の子どもの問題を考える 講師・中西新太郎 （横浜市立大学名誉教授）	SNSをはじめとしたインターネットの利用や、いじめ、不登校、引きこもり、学級崩壊、少年犯罪など、今日の子どもをめぐる状況を明らかにし、子ども理解を深めることの大切さ、子育てや教育の課題を学びます。
17	P M	学童保育と学校——保護者と指導員と教師のかかわり 講師・鎌倉 博（名古屋芸術大学）	今日の学校・教師・子どもをめぐる実態や動向、子育ての願いや子どもの生活を保護者・指導員・教師が伝えあうことの大切さを、それぞれの実践から学びます。
18	A M	子どもの気持ちに気づく——家庭で、学童保育で 講師・杉田真衣（東京都立大学）	働きながら子育てをしている保護者の状況や思い、願いもふまえ、一人ひとりの子どもの思いや気持ちに耳をかけたむけ、気づくこと、理解を深めること、信頼関係を築いていくことの大切さを学びます。
19	P M	性について考える 講師・中村好子（京都・元看護教諭）	からだと心が大きく変化・成長する児童期に、からだと心の変化・成長についての基礎知識をはじめとして、生活をとにする大人が学んでおきたいこと、配慮すべきこと、大切にしたいことを学びます。
20	P M	子どもの発達と学力 講師・馬場久志（埼玉大学）	子どもの成長・発達についての知識をもとに、学力とはなにか、学力の土台になるもの、子どもの発達を保障するために家庭・学童保育・学校で大切にしたいことを学びます。
21	A M	子どもの遊び・仕事・学び 講師・鈴木隆司（千葉大学）	子どもの成長・発達には、遊び・仕事・学びが欠かせません。また、子どもが働くこと（家事労働も含む）や働く人への理解を深めることなどについて学びます。
22	A M	子どものからだと健康——小児医療現場からの支援 講師・和田 浩（小児科医）	生活様式・社会状況の変化とともに、さまざまな問題が生じています。今日の子どものからだの特徴、成長期にある子どもの健康について考えるうえで家庭・学童保育・学校や地域、関係機関で大切にしたいことを学びます。
23	P M	働きながらの子育てと家族・家庭 講師・中嶋みさき（女子栄養大学）	働きながら子育てをしている保護者の状況、仕事・職場の実態をふまえ、家族・家庭の役割、働きながら子育てする環境を築くうえで大切なことについて学びます。
24	A M	困難を抱える家庭を支える学童保育 講師・川松 亮（明星大学）	「子どもの貧困」「児童虐待」についての実態と課題を学び、どの子どもにとっても安心して過ごせる場所であり、困難を抱える子どもや保護者を支える学童保育の役割について考えます。
25	終日	社会保障・児童福祉、自治体をめぐる政策動向と課題 講師・石原剛志（静岡大学）	社会保障の現状と課題、公的保育制度の動向、権利としての福祉、今日の自治体の政策動向と国や自治体の役割と責務、子育てと仕事等を両立することの保障を確立するための運動の課題を学びます。
特設分科会	終日	学童保育での衛生管理と感染症対策 助言者・山崎嘉久 （あいち小児保健医療総合センター）	「新型コロナウイルス感染症」が猛威を振るうなか、学童保育では不安や戸惑いを抱えながらも子どもによりよい生活の場を保障することに努めてきました。子どもの命と安全を守るための衛生管理や学童保育の目的・役割を果たすために必要なことを学び、交流します。

第57回全国学童保育研究集会 参加申込書

必要事項をご記入のうえ、「参加申し込み方法」の①または②へお申し込みください。

参加申込期間 2022年7月1日（金）～9月30日（金）

■個人データの提供について、下記「個人情報の取扱いについて」の内容に同意のうえ、以下申し込めます。

※A4に拡大コピーしてご記入ください。また、**太枠内は必ずご記入ください（必要な事項は○でかこむ）**。

氏名 (参加代表者名)	フリガナ		立 場	保護者（OB・OG含む） 学童保育指導員（放課後児童支援員・補助員） ↳経験年数（ ）年・1年未満 児童館職員・運営関係者・自治体職員 議員・学生・その他（ ）						
申込人数★	個人・複数（ 人） ← 同一の受信機器から一緒に参加する人数を記入									
在籍・勤務・所属する学童保育の所在地	都道府県		全国学童保育研究集会への参加回数							
	区市町村		初めて	2～5回	6～10回	11回以上				
希望分科会 ※終日は、他との組み合わせ不可 ※AMとPMは、組み合わせ可 (例) [AM] 1-① [PM] 1-②	時間帯	分科会番号（希望する分科会番号を○でかこむ）								
	終 日	2-①	2-②	2-③	2-④	2-⑤	2-⑥	2-⑦	2-⑧	3-①
		3-②	4	5	6	7	8	9	10	11
		12-①	12-②	14	15	16	25	特設		
	A M	1-①	1-③	13-①	18	21	22	24		
P M	1-②	1-④	13-②	13-③	17	19	20	23		
資料の送付先 ※建物名や学童保育名等、正確に記入してください。	〒 ー （職場・自宅・その他）									
			（電話番号 ー ）							
当日の連絡先	（当日トラブル時に連絡がつく電話番号）									
当日の受信機器	パソコン・タブレット・スマートフォン									
メール アドレス	フリガナ ※「O」（オー）と「0」（ゼロ）、「b」（ビー）と「6」（ロク）など、数字が英字かを見分けののが難しい場合がありますので、フリガナの記入をお願いします。 記入例…d57zkk@xvg.biglobe.ne.jp（すべて小文字で ティーゴナセツトケー@エックスアイジー、ビッグローブ、エヌイー、ジェイビー）									
※携帯電話会社が提供するキャリアメール（***@docomo.ne.jpなど）では、主催者側からのメールが届かない場合があります。 パソコンからのメールが受信できるメールアドレスをご指定ください。 ※当日、トラブル時に主催者側から連絡することがあります。当日も確認できるメールアドレスをご指定ください。										
参加費の支払について	振込名義：									

★「申込人数」が「複数」の場合は、同一の受信機器（パソコン等）から一緒に参加する全員の氏名等を、以下にご記入ください（記入欄が足りない場合は、コピーしてお使いください）

氏名	フリガナ	立 場	保護者（OB・OG含む） 学童保育指導員（放課後児童支援員・補助員） ↳経験年数（ ）年・1年未満 児童館職員・運営関係者・自治体職員 議員・学生・その他（ ）	在籍・勤務・所属する学童保育の所在地	都道府県		
					参加回数	初	2～5
氏名	フリガナ	立 場	保護者（OB・OG含む） 学童保育指導員（放課後児童支援員・補助員） ↳経験年数（ ）年・1年未満 児童館職員・運営関係者・自治体職員 議員・学生・その他（ ）	在籍・勤務・所属する学童保育の所在地	都道府県		
					参加回数	初	2～5

●個人情報の取扱いについて ご記入いただいた個人情報は、本研究集会への参加申し込み受付業務と問い合わせ、本研究集会運営に必要な範囲、また参加申込者ご本人からの本研究集会への参加申し込み手続きを効率的に実施するために必要な範囲で、全国学童保育連絡協議会の管理責任のもと、提供していただいた個人情報を各都道府県連絡協議会（くわしくは、弊会ホームページをごらんください）と共同利用いたします。全国学童保育連絡協議会の個人情報保護方針に基づき、ご本人の許可なく第三者への提供はいたしません。